

平成24年3月期 決算概要

連結決算概要（経営成績）について

（単位：億円）

区 分	H24/3 期 (A)	H23/3 期 (B)	前期比		
			(A) - (B)	$\frac{(A) - (B)}{(B)}\%$	
営業収益	高速道路事業	6,696	7,103	406	5.7
	料金収入（補填額含む）	5,680	5,553	127	2.3
	道路資産完成高	993	1,536	542	35.3
	その他	22	13	8	60.2
	関連事業	527	530	3	0.7
	S A ・ P A 事業 ²	345	250	94	37.7
	その他の事業 ³	181	279	98	35.0
	7,224	7,634	410	5.4	
営業費用	高速道路事業	6,681	7,092	411	5.8
	道路資産賃借料	3,960	3,890	69	1.8
	管理費用	1,726	1,665	61	3.7
	道路資産完成原価	993	1,536	542	35.3
	関連事業	478	470	7	1.6
	S A ・ P A 事業 ²	280	180	100	56.0
その他の事業 ³	197	290	93	32.1	
	7,159	7,563	403	5.3	
営業利益	高速道路事業	15	10	5	45.9
	関連事業	48	60	11	18.9
	64	71	6	8.9	
経常利益	85	87	1	2.1	
当期純利益	28	100	72	72.1	

1 当社グループは、当社及び連結子会社23社、持分法適用の関連会社6社で構成されており、高速道路事業、S A ・ P A 事業、その他の事業を行っております。

2 高速道路のサービスエリア（S A）・パーキングエリア（P A）で行う飲食・物販等の事業をいいます。

3 受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

高速道路事業トピックス

(1) 交通量

- 当期における当社管内の高速道路の通行台数は、昨年6月20日以降の高速道路無料化社会実験の凍結、休日特別割引(上限料金制(休日1,000円))の廃止などにより、前期比6.3%の減少となりました。

(2) 高速道路事業の業績

- 営業収益のうち、高速道路料金収入につきましては、休日特別割引(上限料金制(休日1,000円))の廃止などに伴う料金収入の増加により、前期比127億円増の5,680億円となりました。
- 一方、営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下、「機構」といいます。)に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加により、前期比で69億円増の3,960億円となりました。
- また、管理費用については、効率化に努める一方、高速道路の新規供用に加え、舗装補修などの更なる「100%の安全・安心」への取り組みなどにより、前期比61億円増の1,726億円となりました。
- 以上のことなどから、当期における高速道路事業の営業利益は、前期比5億円増の15億円となりました。
- 当期の道路資産完成高¹は、舞鶴若狭道(小浜西インターチェンジ~小浜インターチェンジ)の開通や阪和道(海南インターチェンジ~有田インターチェンジ)及び米子道(久世インターチェンジ~上野パーキングエリア)の4車線化の完成などはありませんでしたが、前期と比べ新規開通箇所が少ないことから、前期比542億円減の993億円となりました。

1 道路建設にかかった経費と同額の負債を機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益は発生しません。

関連事業トピックス

- S A ・ P A 事業の店舗売上高は、休日特別割引（上限料金制（休日 1 , 0 0 0 円））の廃止による通行台数の減少などにより、前期比 0 . 5 % の減少となりました。
- S A ・ P A 事業の業績は、今期から新たに連結対象となった P A 店舗運営会社 3 社の業績が加算されたため、収益、費用ともに前期比で大幅に増加しましたが、店舗売上高が減少したことが影響し、営業利益は前期比 6 億円減の 6 4 億円となりました。
- 関連事業全体の収益は、上記のとおり S A ・ P A 事業では増収となりましたが、その他の事業における国等からの受託事業の収益が大きく減少したことから、前期比 3 億円減の 5 2 7 億円となりました。
また、営業利益は、S A ・ P A 事業の減益に加え収益還元事業²の実施などにより、前期比 1 1 億円減の 4 8 億円となりました。

2 当期における収益還元事業では、S A ・ P A トイレの特殊清掃や、社会とのコミュニケーションを通して 1 0 0 % の安全・安心の追求を目指す「DRIVE&LOVE」プロジェクト、携帯電話・P C を使った情報提供ツールである「iHighway（アイハイウェイ）」の充実などを実施しているほか、東日本大震災支援、和歌山県への台風 1 2 号災害支援も行いました。

全事業の業績について

- 以上の結果、全事業の営業収益は前期比 4 1 0 億円減の 7 , 2 2 4 億円となりましたが、これは道路資産完成高が 5 4 2 億円減少したことが主な要因となっています。道路資産完成高は道路の完成時期により大きく変動する性質のものであるため、これを除いた営業収益で見ると 1 3 1 億円の増収となっております。
- 利益面では、道路事業では増益となったものの、関連事業では S A ・ P A 事業の減益や収益還元事業の実施などの結果、経常利益は概ね前期並の 8 5 億円となりました。

【参考】個別決算概要（経営成績）について

(単位:億円)

区分	H24/3 期 (A)	H23/3 期 (B)	前期比		
			(A) - (B)	$\frac{(A) - (B)}{(B)}\%$	
営業収益	高速道路事業	6,679	7,095	415	5.9
	料金収入（補填額含む）	5,681	5,553	127	2.3
	道路資産完成高	993	1,536	542	35.3
	その他	4	5	0	13.6
	関連事業	236	324	88	27.2
	S A ・ P A 事業 ¹	103	105	2	2.1
	その他の事業 ²	132	218	86	39.4
		6,915	7,419	503	6.8
営業費用	高速道路事業	6,680	7,105	424	6.0
	道路資産賃借料	3,960	3,890	69	1.8
	管理費用	1,726	1,678	48	2.9
	道路資産完成原価	993	1,536	542	35.3
	関連事業	219	299	80	26.8
	S A ・ P A 事業 ¹	62	63	0	0.8
	その他の事業 ²	156	236	79	33.8
		6,899	7,404	505	6.8
営業利益	高速道路事業	0	10	9	95.7
	関連事業	16	24	7	32.0
		16	14	1	12.3
経常利益	37	29	7	27.0	
当期純利益	9	24	14	60.6	

1 高速道路のサービスエリア（S A）・パーキングエリア（P A）で行う飲食・物販等の事業をいいます。

2 受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

平成24年3月期 連結貸借対照表

(単位：億円)

項目	H24/3 末	H23/3 末	増減額	主な増減説明								
連結資産	7,322	6,788	533	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現預金等の増 326 ・ 未収入金の減 225 (無料化社会実験補填金 148、道路完成高未収入金 116) ・ 仕掛道路資産の増 451 (建設投資 1,446、完成道路の引渡による減 993) ・ 固定資産新規取得による増 198 ・ 減価償却費等 226 								
連結負債	5,709	5,203	505	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路投資(仕掛道路資産)に係る未払金の増 21 ・ 設備投資に係る未払金等の増等 60 ・ 有利子負債(1年以内返済予定長借を含む)の増 300 <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">期首</th> <th style="text-align: center;">調達</th> <th style="text-align: center;">引渡・ 返済</th> <th style="text-align: center;">期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3,206</td> <td style="text-align: center;">1,460</td> <td style="text-align: center;">1,160</td> <td style="text-align: center;">3,506</td> </tr> </tbody> </table>	期首	調達	引渡・ 返済	期末	3,206	1,460	1,160	3,506
期首	調達	引渡・ 返済	期末									
3,206	1,460	1,160	3,506									
連結純資産 (自己資本比率)	1,613 (21.6%)	1,584 (22.8%)	28 (1.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当期純利益 28 								

平成24年3月期 連結キャッシュフロー計算書

(単位：億円)

項目	H24/3 期	H23/3 期	増減額	主な増減説明
営業 C F	171	38	209	
（道路建設投資）	(315)	(268)	(46)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕掛道路資産に係る支出の増 9 ・ 仕掛道路資産に係る未払金の増 267 ・ 完成道路の引渡し額の減 542 ・ 完成道路に係る未収入金の減 237
（その他）	(486)	(230)	(255)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税金等調整前当期純利益 48 ・ 減価償却費の増 11 ・ 無料化社会実験補填金未収入金の減 296
投資 C F	137	271	133	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備投資に係る支出の増 1 ・ 設備投資に係る未払金の増等 132
財務 C F	293	85	207	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規社債・借入による資金調達の減 120 ・ 社債・借入金の機構引渡しの減 328
現金及び現金同等物の期首残高	600	824	223	
現金及び現金同等物の増減額	326	223	550	
現金及び現金同等物の期末残高	927	600	326	

【道路会社のキャッシュフロー計算書】

- ・ 高速道路への建設投資は、道路会社にとって機構に対する「商品」のため、投資額は『営業活動 C F』のマイナスに整理し、これに見合う資金は借入調達するため『財務活動 C F』のプラスとしています。
- ・ 高速道路が開通し機構に引き渡す時に、道路資産完成高を『営業活動 C F』のプラス、借入金の引渡額を『財務活動 C F』のマイナスとしています。
- ・ 従って、**高速道路への投資額が完成高を上回る決算期の『営業活動 C F』がマイナスとなる場合があります。**

平成25年3月期 業績予想

(単位：億円)

損益計算書		連結			個別
		H25/3期 予想(a)	H24/3期 実績(b)	差引 (a-b)	H25/3期 予想
営業収益	高速道路事業	7,092	6,696	395	7,092
	うち、料金収入	5,575	5,680	105	5,575
	うち、道路資産完成高	1,516	993	522	1,516
	関連事業	698	527	171	386
	うち、SA・PA事業営業収益	356	345	10	103
	計	7,791	7,224	567	7,478
営業利益	高速道路事業	1	15	14	1
	関連事業	46	48	1	15
	計	48	64	16	17
経常利益		48	85	37	15
当期純利益		26	28	1	9

- ・ 高速道路料金収入は、前期比105億円減の5,575億円と見込んでいます。
- ・ 道路資産完成高は、東九州自動車道都農IC～高鍋ICの12.9km、京都縦貫自動車道沓掛IC～大山崎JCTの9.8kmの新規開通などを予定しており、完成する事業が増加することから、前期比522億円増の1,516億円と見込んでいます。
- ・ 高速道路事業の営業利益は、前期比14億円減の1億円と見込んでいます。
- ・ 関連事業の営業収益は、主に受託事業の増加により、前期比171億円増の698億円と見込んでいます。
- ・ 関連事業の営業利益は、SA・PA店舗改修等の増加を見込んでいることなどから、概ね前期並の46億円と見込んでいます。